

これまでの検討経過

1. 設計者の選定に至るまで

現在の本庁舎は、1970年に開庁しましたが、その後、図4にあるような多くの問題を抱えることとなり、行政や議会を中心に様々な検討がなされてきました。このような状況の中、1999年に、庁舎移転を視野に入れて、森野二丁目用地が購入され、以後、庁舎問題解消のための本格的な検討が、市民や学識経験者を交えて行われるようになりました。

この間、市では、無作為抽出による5千人規模の市民アンケートの実施、市民や学識経験者が主体となった庁舎問題検討委員会(委員長 現首 都大学東京名誉教授・高見澤 邦郎氏)による検討など、様々な形で多くの皆さんに意見をいただきながら検討を進め、2004年6月には、「新庁舎建設基本構想」を策定しました。

また、続く「新庁舎建設基本計画」の策定に際しては、市民部会を設置して、これまでのように、単に行政が企画運営する会議に参加するのでなく、市民自らが会議の企画運営を行い、主体的に報告書をまとめあげるなど、他の自治体においてもあまり例を見ない、市民協働における先駆的取り組みも行われました。



市民部会での検討の様子

2. 町田市にふさわしい設計者を

このような経緯から、設計者の選定にあたっては、新庁舎建設の「基本構想」「基本計画」を十分理解し、その方向性に沿った設計を行うことのできる設計者、また、設計の過程において、町田市の特徴を生かし、市民や議会、行政と一体となって多面的に練り上げる能力のある設計者を選ぶことが重要と考え、単に価格のみを基準とする入札方式は採用せず、町田市新庁舎の設計を委ねるにふさわしい、適性を備えた設計者を選定するための方式を採用することにしました。

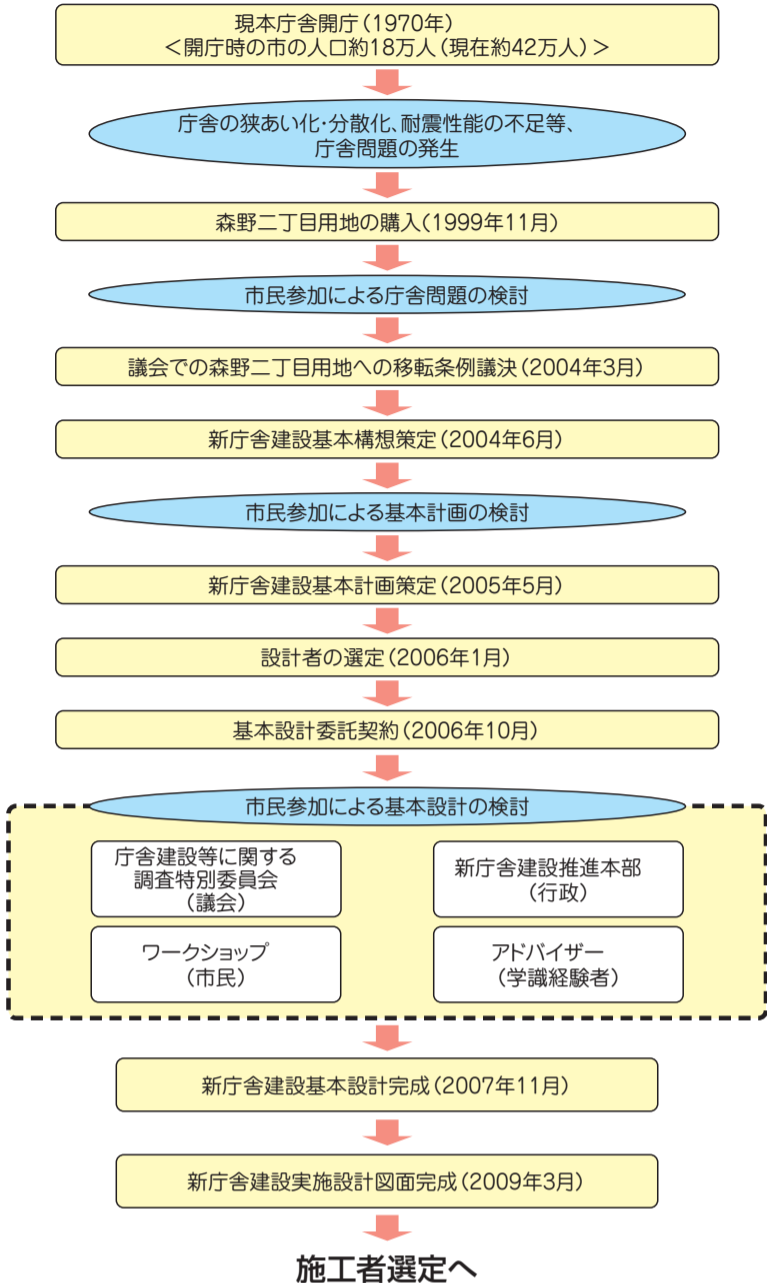
設計者の選定は、学識経験者等で構成する「町田市新庁舎建設設計者選定委員会」(委員長 現芝浦工業大学名誉教授・三井清典氏)を設置して行われました。

この「資質(適性)評価」とは、応募者が新庁舎建設の「基本構想」「基本計画」をどう理解し、どう設計に反映しようとしているのか、また設計実績を町田市の新庁舎でどのように活かそうとしているのか等について、文章と概念図等あるいは作品現地審査などで評価するものです。

また、「簡易提案」とは、完成された設計案を求めるものではなく、設計に対する考え方を求めるもので、応募者の負担軽減を図るとともに、設計者(人)を選ぶということを重視したものです。

この設計者選定には、全国から優れた実績のある48の設計者にご応募いただきました。

図4 新庁舎建設計画に関するこれまでの経緯



審査は3次審査まで行われ、最終審査の結果、新庁舎の基本設計業務委託の第1位契約候補者となる最優秀者として、楨文彦氏(楨総合計画



設計者選定の様子



石阪市長、設計者楨文彦氏と参加者のみなさん

新庁舎に関するこれまでの検討経過の詳細は、町田市ホームページでご覧いただくことができます。(トップページ「市政情報」→「新庁舎計画」)ぜひ、ご覧下さい。

Q&A
これまでの検討の中で皆さんから寄せられた主な質問について、お答えします。
Q 新庁舎建設によって財政状況が悪化するのでは?
A 現在、分庁舎の借り上げなどにかかる経費は、年間6億円近くにとどまっていますが、庁舎建設の意義は、こうした経費の軽減、解消という点にもあります。庁舎建設の費用を生み出すために、他の施策の予算を削減するということも考えておりません。
Q 現庁舎はまだ使えるのでは?
A 耐震性能の不足が指摘されており、安全基準を満たすためには、耐震壁を設けたり、柱を補強するなどの本格的な耐震補強工事が必要で、今よりも狭あい化が進んでまいります。また、本格的な耐震補強工事をして、建物の寿命から耐震性能の向上に限界があることも指摘されています。
Q 豪華な庁舎になるのでは?
A 機能面を重視した簡素な建物を目指しています。現在使用している机や椅子、什器類をできるだけ新庁舎でも使用するなど、経費の節減に努めます。
Q 新庁舎の建設による交通への影響は?
A 交通管理者である警察にも相談しながら、周辺道路にできるだけ負荷がかからないように敷地周辺道路を整備する計画です。
Q ガラス張り、大きなアトリウムもあり、光熱費がずいぶんかかるのではないですか?
A 自然光を採り入れやすかったり、夏場の熱放出、冬場の暖気再利用といった省エネルギー効果を得ることができると(3面参照)。